

地域医療連携室だより

～ 第 19 号 ～

大阪市立十三市民病院

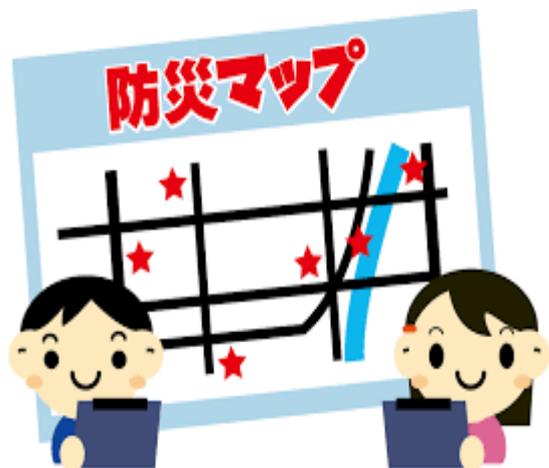
地域医療連携室 室長 挨拶

残暑の厳しさも束の間で、台風や低気圧の影響で不安定な天気が続いております。10月の前半までは、曇りや雨の日が多く気温が高めで紅葉も平年より遅い見頃を迎えております。ここ最近例年を下回る気温の低い日もあり急に秋を越えて急いで冬支度をする必要を感じることもありますが、貴院におかれましては、益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。

昨年は、9月4日に台風21号(チュービー)が「非常に強い勢力」で上陸し近畿地方を通過しました。これは、1993年13号以来25年ぶりのことで、記録的暴風(最大瞬間風速58.1m)と第二室戸台風を上回る大規模な高潮をもたらし、関西国際空港では、最大8000人が孤立状態となる被害も記憶に新しいと思います。



地域医療連携室長 小砂見 恵子



さらに今年は、9月9日の台風15号(ラオス)に続き、10月12日に台風19号(ハギビス)と低気圧による大雨の影響で関東甲信から東北まで記録的な大雨や暴風、高潮で同時多発的に多くの河川が氾濫し、甚大な被害をもたらしました。浸水面積は、西日本豪雨(平成30年7月)を上回り死者91名、行方不明8名(10月27日現在)となり、政府は、激甚災害の指定を行なったほか、台風としては初となる特定非常災害の認定を行ないました。このような中で浸水地域を特定し早期に避難するなどの対応を「ハードマップ」により行ない有用であったことが証明され、今後も被害を減らすために積極的に活用していくべきだと指摘されています。

当院は、大阪府より市町村災害医療センター(災害医療協力病院)として指定されており、今年も11月22日(金)に災害拠点病院の大阪市立総合医療センターとの連携訓練を行なう予定です。今後は、大阪市および地域医師会との連携をより一層深めていく必要があると考えます。

さて当院の耳鼻科外来では、月曜日と金曜日の診察は、行なっておりませんが、この度10月1日付けで大阪市立大学病院より応援医として小島 道子先生、梶本 康幸先生に診察をしていただくこととなりました。小島先生には、月曜日の午前9時から11時まで、梶本先生には、金曜日の午後2時から16時までの時間で予約を取らせていただいております。また急な診察の依頼などありましたら地域医療連携室まで連絡いただきましたら対処させていただきますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



病理診断科のご紹介

平素は多数の患者様をご紹介いただきありがとうございます。ご紹介します。

先生方には直接お目にかかることはございませんが、当院にご紹介下さった患者の方が生検や手術をされたときに、臨床医師より、経過や結果をお伝えすべく診療情報提供書がお手元に届くかと存じます。そこにはおそらく病理診断報告書が添付されていると思います。その病理診断を担当しているのが病理診断科(および病理検査室)です。

「病理診断」は、組織や細胞に現れた病変を、顕微鏡を通して詳細に観察して行うもので、胃・腸・肺・乳腺など、あらゆる臓器を対象にしています。病理診断は治療方針に影響を及ぼす重要な診療行為であり、病理診断の結果は速やかに主治医に報告され、診療に生かされます。

今まで、病理検査は外部検査機関に業務委託していましたが、本年2019年4月より、病理診断科を新設し、病理検査の院内実施を開始しています。病理専門医(経験年数10年以上、細胞診専門医の資格有り)1名と臨床検査技師3名(3名とも細胞検査士の資格有り)で病理業務を担当しています。病理組織については全例を病理専門医が診断しています。診断困難例は同じ大阪市民病院機構である大阪市立総合医療センター病理診断科と連携し、必要に応じて日本病理学会のコンサルテーションシステムや懇意にしている当該分野のエキスパートにコンサルトをすることにより、質の高い診断を心がけています。細胞診は2名の細胞検査士が検鏡の後、細胞診専門医による診断を実施しています。自動免疫染色装置による免疫染色も開始しており、より迅速な診断結果が得られるように取り組んでいます。またバーコード対応のシステムを取り入れ、医療安全対策に対応しています。

今後も、臨床医・臨床検査技師をはじめとするスタッフとの連携のもとに、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された組織の病理診断、手術中の迅速診断を行い、医療の質向上に貢献していきたいと思っております。



臨床工学技士のご紹介

2014年4月より十三市民病院に臨床工学技士が配属され、医療機器の保守管理を行うMEセンターが開設されました。MEセンターの大きなテーマは医療機器を介した医療安全です。直接、患者様の治療や看護に関わることは少ないですが、医療機器が患者様に対して正しく安全に使用できるように日々業務に取り組んでいます。

また、院内で行われる各種血液浄化療法、人工呼吸器装着患者様へのサポート、カテーテルインターベンション治療、ペースメーカー導入から遠隔モニタリングによる不整脈治療、RSTへの参加など、臨床現場への技術提供も行いチーム医療の一端を担っています。

人数は少ないですが、高度化・複雑化する医療機器の専門職として、他の医療スタッフと協力し、医療機器が安全・安心に使用できる環境を構築し、これからも患者様により良い医療が提供できるように取り組んでいきます。

* 臨床工学技士 (Clinical Engineer: CE) とは *

メディカルスタッフの一種であり、医学的・工学的な知識を有する医療機器の専門技術者です。1987年に臨床工学技士が制度化されてから、まだ30年ほどの比較的新しい職種で、厚生労働省認定の国家資格です。厚生労働大臣の免許を受け臨床工学技士の名称を用い、医師の指示の下に生命維持装置の操作および保守点検を行うことを業としています

臨床工学技士という職業はまだまだ認知度が低いですが、医療現場では“縁の下の力持ち”や“病院の機械屋さん”と言われる職業です。是非、名前だけでも覚えて、こんな職業もあるんだなあと知っていただくと嬉しいです。



医療安全管理室のご紹介

2019年4月より医療安全管理者となりました大津千穂です。十三市民病院では、安心して安全な医療を提供するため、職員一人ひとりが真摯に医療安全に取り組んでおります。医療安全を推進するため、ヒヤットしたり、ハットしたとき、事象や事故が発生したときにインシデント・アクシデントレポートとして報告し、医療事故未然防止に活用しております。組織としては、「医療安全推進委員会」「リスクマネジメント部会」「看護部医療安全推進委員会」「医療問題対策委員会」を開催し、医療安全対策を検討しております。決まったことは、院内医療安全ニュースや院内メールにて職員と情報を共有し、同じことを繰り返さないように取り組んでおります。また、予防対策としては、KYT(危険予知トレーニング)、BLS(一次救命処置)、環境ラウンド、転倒・転落ラウンドを各部署のリスクマネージャーと共に医療安全活動を行っております。



今後も地域の病院と連携を行い、患者さんやご家族が安心して入院生活を送っていただけるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

地域の方へのお願い ~安全な医療にご協力いただくために~
安全な医療の第1歩は、患者さんの確認をしっかり行うことです。

十三市民病院では、医療を受けられる患者さんに
「お名前を名乗っていただく」ことをお願いしております。

診察・検査・点滴など受ける際には、患者さんの取り違え防止ために、お名前をフルネームでお伝えください。ご理解とご協力をお願い申し上げます。



皮膚排泄ケア認定看護師のご紹介

はじめまして！皮膚・排泄ケア認定看護師の奥田典代(みちよ)です。

私の役割は、創傷ケア、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)ケア、失禁ケアを専門的に扱っています。

具体的な活動内容としては、褥瘡管理者として褥瘡ハイリスク患者のラウンド、予防的スキンケアや創傷ケア、適切な寝具選択、ポジショニングの実践、またスタッフ指導を行い褥瘡の発生予防に努めています。

ストーマケアは、毎週月曜日の午後から専門医師とストーマ外来を行っています。ストーマ外来は、ストーマを造設することでの生活の変化、ストーマ用品を使用した新しい排泄方法の習得に関する知識を深めて自分らしく快適な生活が送れるよう支援する専門外来です。今までは当院でストーマ造設された方対象でしたが、4月から他院でストーマ造設された方も受け入れております。施術者の同行も可能ですのでスキンケアや排泄物が漏れる、ストーマ装具選択などお困りの際は予約制となっておりますが、地域医療連携室(TEL: 06-6150-8067)にご連絡ください。

失禁ケアでは、失禁による皮膚のかぶれなどの改善と予防ケアなどを行っています。

また、訪問看護ステーション看護師と同一日に訪問する同行訪問を行っています。昨年はストーマを保有する方1名、今年も褥瘡を有する方1名の同行訪問に行かせていただきました。訪問時は褥瘡ができた要因を検討し、在宅で実施できるケアのアドバイス、また、他の部位に褥創発生しないよう予防ケアを検討し提案させて頂きました。今後も地域包括ケアの充実に向けて、円環的なサポートを目指し頑張っていきたいと考えています。対象の患者様がおられましたらご連絡いただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



～市民公開講座のご案内～

○ 令和2年1月25日(土)10時30分～12時00分
十三市民病院 9階すかいルーム

テーマ 知って得する〇〇の話

「白内障の話」

～加齢に伴う変化ですよ～

演者:眼科部長 森脇 光康 先生

「痔の話」

～切らないで治そう～

演者:外科部長 井上 透 先生

講演会終了後、テーマの疾患について
ご相談をお受けいたします

市民向けの講演となっておりますので、
希望の方がおられましたら
ご紹介のほどよろしくお願い致します

～第9回十三トピックセミナーのご案内～

○ 12月11日(水)18時30分～19時30分 9階すかいルーム

「高齢化で急増する心不全にどのように立ち向かうか？
—基礎心疾患の鑑別からリハビリテーションまで—」

特別講演演者:大阪市立大学大学院医学研究科

循環器内科学

准教授 泉家 康宏 先生

※ 大阪府医師会生涯教育講座を単位申請しております

編集

大阪市立十三市民病院 〒532-0034

地域医療連携室

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話:06-6150-8000

直通電話:06-6150-8067